

令和 8 年 2 月 1 日

神戸市

## 営繕積算システム RIBC2 で積算関係図書を作成する

### 建築設計・積算事務所の皆様へ

平素は本市営繕行政の推進にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

本市が発注する建築工事設計業務の積算関係図書一式の作成に使用する積算システムは、一般財団法人建築コスト管理システム研究所が開発・運用している「営繕積算システム RIBC2」（以下、「RIBC2」とします。）を使用しています。

また、RIBC2 入力情報を読み取り違算をチェックする『積算チェックシステム』を活用しています。『積算チェックシステム』で適正な判定を行うためには一定のルールがございます。

つきましては、RIBC2 で積算関係図書を作成する建築設計・積算事務所の皆様におかれましては、内訳明細書、見積り比較表の構成を統一するため、以下の手順・入力ルールに沿って作成いただきますようご理解・ご協力お願いいたします。

#### 記

#### 1. 別紙明細行の自動挿入について

現在、本市では「公共建築工事内訳書標準書式」の別紙明細書を活用しておりません。内訳書を作成する際は、[新規作成] 画面において [別紙挿入] の✓を外し、別紙明細の自動挿入を解除してください。

(RIBC2 内訳書作成システム操作概要 (神戸市版) (第 14 版) P.13 参照)

#### 2. 細目別内訳書における直接仮設工事の入力について

直接仮設工事の細目を作成する際は、以下の手順を遵守してください。

(RIBC2 内訳書作成システム操作概要 (神戸市版) (第 14 版) P.19 参照)

- ① 細目別内訳書に、「直接仮設工事 Ⅰ 式」の別紙明細行を挿入する。
- ② 挿入した別紙に、直接仮設工事の細目を行挿入する。

#### 3. 当該工事に適用する単価 (刊行物、カタログ、見積り等) について

刊行物、カタログ、見積りの単価は、見積比較ファイルにより入力してください。

※ 見積単価等は見積分類ごとに比較することができます。同工種の見積比較において、見積単価の見積取得先が異なる場合は、見積分類を任意設定により分ける必要がありますので、ご注意ください。

なお、これにより難しい場合は、本市設計担当者と協議し入力方法を決定してください。

(RIBC2 内訳書作成システム操作概要 (神戸市版) (第 14 版) P.25～参照)

#### 4. 見積分類名称について

- ①見積分類名称には「代価表」という名称は使用しない。
- ②刊行物単価には「刊行物」（「刊」のみでも可）という名称を入れる。
- ③カタログ単価には「カタログ」という名称を入れる。
- ④アルミサッシや鋼製建具等の見積分類名称には「金属製建具」という名称を入れる。

#### 5. 見積単価、刊行物等単価について

- ①見積単価や刊行物及びカタログ単価の備考欄には「材工共」「材のみ」「工のみ」（「材工費」「材料費」「工費」でも可）を入力する。
- ②刊行物単価で、公表価格には備考欄に「公表」を入力する。

（備考欄記載例）

1 行目→	刊行物
2 行目→	材工共
3 行目→	施 P448、コ P396 公表

- ③週休 2 日制工事の単価の補正は、代価表の中の単価の下段に入力すること。

（RIBC2 内訳書作成システム操作概要（神戸市版）（第 14 版）P.24 参照）

（下図②部分）

使 用 名 称	単 位	数 量	率 率	単 価	金 額	率 対 象	備 考	更新日時
水盛りかた	m <sup>2</sup>	1	1					21/05/21 14:17
水盛りかた (鉄筋・型枠足場)	m <sup>2</sup>	1	1					21/05/21 14:17
水盛りかた (鉄筋・型枠足場) 特注品	m <sup>2</sup>	1	1					21/05/21 14:17
水盛りかた (鉄筋・型枠足場) 特注品	m <sup>2</sup>	1	1					21/05/21 14:17
計					2,819.06			
躯体支保工	m <sup>2</sup>	1	1	4,490	4,494.5		丸の有 代価表 0020	19/08/05 09:11
躯体支保工	m <sup>2</sup>	1	1	4,490	4,494.5		丸の有 代価表 0020	19/08/05 09:11
計					4,494.5			
内部仕上足場	m <sup>2</sup>	1	1				丸の有 代価表 0021	21/05/21 14:17
内部仕上足場	m <sup>2</sup>	1	1				丸の有 代価表 0021	21/05/21 14:17

#### 6. 科目、中科目の名称について

積算基準に倣い、建物全体を解体する工事を「とりこわし工事」とし、建物の一部（内装材等）を解体する工事については「解体撤去工事」等としてください。

以上